

「スポーツ・フォー・トゥモロー」(以下SFT)は、2014年から東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を開催する'20年までの7年間で開発途上国をはじめとする100カ国・1000万人以上を対象に、日本国政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業。世界のよりよい未来をめざし、スポーツの価値を伝え、オリンピック・パラリンピックのムーブメントをあらゆる世代の人々に広げていく取り組みです。

## メガスポーツイベントを契機に釜石市が取り組む復興への軌跡

SFTプログラムとして、約2年半前に日本スポーツ振興センターと日本ラグビーフットボール協会、岩手県釜石市が連携し、インドネシアとスリランカで防災教育プログラムを実施しました。そのプログラムに参加した向山昌利氏が釜石市を訪問。今回は、向山氏によるスポーツと震災復興についてのコラムをお送りします。

## 「物語」の裏側にあるスポーツの可能性



### 向山昌利

流通経済大学

スポーツ健康科学部准教授  
1975年生まれ。熊本県出身。元ラグビー日本代表。日本ラグビーフットボール協会の国際協力部門長として、アジア地域でラグビー普及活動と国際交流事業に従事。また、子どもスポーツ国際交流協会代表理事として、ラグビーを通じた国際交流「KAMAISHI KIDS TRY」を2012年から釜石市で開催している。

など、被災時に世界中から届いた支援に対する感謝が表されました。また、復興に向かう市民の姿は、RWCの熱気と重ねられながら感動的な物語として世界中に発信されました。こうして生み出された「物語」は、あたかも「震災復興」が達成されたかのような雰囲気をつくり出していきます。

しかし、「震災復興」の達成という思い込みは、記念試合前



▲釜石シーウェイブスジュニアの子どもたちが記念試合をサポート

'20年10月10日、日本選手権7連覇の偉業を誇る新日鐵釜石ラグビー部(現釜石シーウェイブス)の本拠地であった「ラグビーのまち」岩手県釜石市を訪問しました。多くの人々を魅了したラグビーワールドカップ日本2019(以下RWC)の1周年を祝う記念試合を観戦するためです。私にとって今回の釜石滞在は、熱狂と興奮に包まれたRWCの感動を振り返る機会となっただけではなく、RWC釜石大会の開催意義でもあった「震災復興」という重要なテーマを考える貴重な機会にもなりました。

東日本大震災から8年余りが経過した'19年9月、釜石市でRWCが開催されました。スタジアムでは市内小中学生の想いが歌詞に込められた「ありがとうの手紙」が合唱される

にスタジアム周辺を散策するなかで覆されます。スタジアム周辺に広がる空き地には、真新しい家がポツリポツリとしか建っていません。こうした状況は、被災前のまちなみを取り戻せていない現状を映し出しています。確かに、釜石市は人口減に長年悩まされていたため、被災前のまちなみをそのまま取り戻すことが「震災復興」の達成を意味するわけではありません。しかし、復興に向けた努力が現在も続けられている点は見受けられるように思います。

今回、釜石市の現状を直接目にする事で、感動的な「物語」が被災地の一面しか伝えてくれないことを実感しました。こうした釜石での個人的な経験をもとに、RWCに続くメガイベントとしての東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下東京2020大会)について考えてみたいと思います。

東京2020大会は「震災復興」を掲げて招致活動を進めた経緯があります。東京2020大会が「震災復興」を後押しするために欠かせない条件は、被災地での復興に向けた努力が今もなお続いていることを、まず私たちが認識することではないでしょうか。つまり、東京2020大会を契機に発信されるであろう感動的な「物語」の単なる読者となるのではなく、そうした「物語」の裏側にある被災地の日常をも読み取ろうとする積極的な意識を持つことが、「震災復興」を後押しする東京2020大会を実現するための重要な第一歩となるように思うのです。

東京2020大会は「震災復興」を掲げて招致活動を進めた経緯があります。東京2020大会が「震災復興」を後押しするために欠かせない条件は、被災地での復興に向けた努力が今もなお続いていることを、まず私たちが認識することではないでしょうか。つまり、東京2020大会を契機に発信されるであろう感動的な「物語」の単なる読者となるのではなく、そうした「物語」の裏側にある被災地の日常をも読み取ろうとする積極的な意識を持つことが、「震災復興」を後押しする東京2020大会を実現するための重要な第一歩となるように思うのです。



◀2018年2月、インドネシアおよびスリランカにおいて実施した少年少女を対象とするラグビー交流・指導会。スポーツとラグビーが持つさまざまな価値を子どもたちと共有した。さらに、岩手県釜石市の職員から津波の心構えと対処方法などについて経験・知見を共有し、意見交換も行った

### ■SFTに関するお問い合わせ

[スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局]

E-mail:sft.info@jpnssport.go.jp <https://www.sport4tomorrow.jpnsport.go.jp/> ※コンソーシアム会員募集中!! 詳細はホームページをご覧ください。